

和歌山市議会だより

6月定例市議会は、6月12日から29日までおこなわれました。

日本共産党市会議員団は、市長が提案した補正予算など14件の議案と人事案2件には賛成、承認案件1件、議案2件について反対しました。採決前の反対討論は、渡辺忠広市会議員が行いました。

日本共産党市議団の一般質問の概要は次のとおりです。

滝畑

産廃埋立地計画の撤回を求めて

南畑さち代議員



南畑議員は、「最終処分場設置計画が明らかとなって一年。建設反対の声は広がっている。市長ら

に住民の立場から不安解消に対応すること、その最大の解決策である計画撤回」を求めました。

「市長は、住民の声をどう受け止めているのでしょうか。また全国のトラブルの視察と調査をして、住民不安にこたえよ」とせまりました。

市長は、「多数の声が寄せられ、生活と自然環境への不安、設置予定業者への不信感があると受け止めています。また他府県における諸事業調査の報告を受け、調査内容を精査し、視察先を検討します」と答弁しました。

南畑議員は、さらに「11ヘクタールの森林伐採による洪水被害



南畑議員の質問に聞き入る傍聴のみなさん

の予測、調整池設置、里道と林道などに自治会の同意が必要か」などを質問しました。

市は、「1ヘクタール以上の開発行為は、県知事の許可が必要。和歌山市として、水害防止、災害防止、水源確保、環境保全の観点

河西保育所の民営化・建て替え問題

森下さち子議員



森下議員は、「和歌山市は、『公立保育所民営化整備計画』を4年前に策定し、一定の数を民営化することになっています。

しかし河西保育所の保護者が計画を知らされたのは今年の2月で、突然の民営化方針を受け入れることはとうていできません。さらに耐震性に問題のある園舎の建て替えを園庭で行うことに大きな不安を持っています。

子どもたちの安全の確保や保育内容を市として保障することについても、保護者の意見を汲み、思いに答える必要があるのではないのでしょうか。」と質問しました。

市は、「過去の経験を踏まえてゆるやかな移行ができるよう必要な準備期間をおき、保護者



から県に意見を述べます。通常、当該手続きをする場合、地元受益者や土地所有者との間で紛争が生じない証として同意を得られるよう指導しています。」と答えました。

の選択を可能にすると共に園児の

フォローや安全対策を行うこと。園舎の建設方法や民営化の時期などについては保護者会と協議する必要があると考えている」と答弁しました。



6月議会での各議員の質

森下さち子議員

「公立保育所民営化整備計画」

渡辺忠広議員

「公共交通施策」
「共同火力発電所新規建設、海
南火力発電所2号発電機再稼働問題」

松坂みち子議員

「和歌山市の農業施策」
「介護保険制度の改定」

ひめだ高宏議員

「津波避難場所の確保と避難路の整備」

南畑さち代議員

「住宅施策」「スポーツ施設」
「山口 滝畑地区の産廃最終処分場問題」
「通学路の安全」



住金
構内

共同火力発電所新規建設 海南火力発電所再稼働

渡辺忠広議員



渡辺議員は、「住金構内の共同火力発電所新規建設、海南火力発電所2号発電機再稼働問題」について質問しました。

「共同火力については、事業者は、旧1号機を廃止し、新規稼働計画の環境影響評価書を提出し、認可する県は、和歌山市に対して環境影響評価書への『意見書』の提出を求めています。しかし、市は、何の検討もおこなわず、『要望書』提出にとどめていました。また、海南火力発電所の再稼働計画については、議会へ報告もしていません。いずれも環境に影響を及ぼす事業であり、市民の生活環境を保全する責任の放棄ではないか」と指摘しました。そして「市民の心配を受け止め、今後どのように対応するのか」と質問しました。



市は「共同火力については、今後は、専門家の意見を聞くなどの対応をしていきたい」と答えました。

介護保険制度改定で

介護の実態を把握し、対策を

松坂みち子議員



海南発電所については、「連絡をしなかったことを謝罪するとともに、今後は対応を確認する」と答弁しました。

松坂議員は、「改定の大きな目的は、軽度認定者を介護保険から遠ざけ、はずしていくということにあります。状態が軽い間に支援をすることで、同じ状態を保ち、重症化しません。現場に起こっている矛盾をしっかりと受け止め、軽度者への支援こそ大切であるという立場に立って、真に誰もが安心して利用できる介護保険制度へと変えていくよう、市も力を発揮するように」と強く求めました。

松坂議員は、「この4月から、介護保険制度の内容が改定されました。たとえば、介護報酬は実質2.28%の減額となり、家事援助の時間は、45分で区切られることになりました。実際に運用されてから、どのような影響が出ているのかを把握しているでしょうか」と質問しました。

市は、「4月当初は戸惑いが生じたが、現在は概ね円滑にサービスが運用されていると考えている」と答弁していました。

松坂議員は、さらに「とても実情を把握しているとは思えません。利用者の経済的負担が増えてしまい、この矛盾のなかで事業者も悩んでいます。市として把握し、対策を考へることが必要ではないでしょうか」と質問しました。

ひめだ議員は、「津波の時にどこに逃げたらいいのかと多くの市民が関心を持っています。私は、地域のみなさんと毛見や琴の浦の裏山、和歌浦の奠供(てんぐ)山や妙見山を歩き、どのような整備が必要か見てきました。市は津波から避難するための避難路の整備費を1件100万円まで、全額補助する制度をつくっており、十分気配りが行き届いた制度だと思えます。市長自らが各地区に行って、補助制度を作ったので、どんな

津波からの避難場所確保避難路の整備

ひめだ高宏議員



「津波の時にどんな整備しますから」と説明しているところでしたが、その予算は500万円しか持っていないのは少なすぎると思う。この予算の増額について、市長の考えはどのようなものでしょうか。」と質問しました。

市は、「津波からの避難は、地震発生後から津波が到達するまでの間に、とにかくあきらめ

6月議会から、本会議のすべてがインターネットで視聴できるようになりました。和歌山市のホームページを開くと、右側に、和歌山市議会のコーナーがあり、その「本会議インターネット中継」をクリックすれば、すべての議員の質問もご覧になれます。

(アドレスは、<http://www.gikai-web.com/dvl-wakayama-c/>です)

みなさんの、党議員の質問に対するご意見・ご要望をお寄せいただけますよう、よろしくお願いいたします。



ずに、津波避難目標地点である、高台などに避難する必要があります。このことから、避難路の整備については、状況に応じて補助金の増額を検討していきます。」と答えました。

